

福岡市内で発生した連続放火事件における 犯罪者プロファイリングの試み

—— 報道情報に基づいた犯罪者プロファイリングの検討 ——

大 上 渉*

【キーワード】

犯罪者プロファイリング, 連続放火, 地理的プロファイリング, 報道, 福岡市

犯罪者プロファイリングとは、犯行の分析に基づいて被疑者の性格特徴や行動特徴を明らかにする手法である (Douglas & Burgess, 1986)。この手法を用いれば、従来の捜査 (地取りや鑑取り) では犯人特定が難しい事件、例えば被害者と面識のない犯人による放火事件や強姦事件などで容疑性の高い人物像を呈示し、捜査を支援することが可能になる。

犯罪者プロファイリングの理論的背景には、共通した性格特徴を持つ者は、行動スタイルも類似しているという仮説があり (渡邊, 2004 a)、多くの研究や実践により支持されている。

例えば、殺人犯の犯行行動 (殺害方法や遺体の処分方法等) と属性 (性別、年齢、犯罪歴等) の関係について調査した渡邊 (2004 b) によると、遺体に咬傷がみられる場合、その犯人は犯罪歴を有することが多く、遺体に外傷がみら

*福岡大学人文学部講師

れない場合、その犯人は加害者と面識を有することを報告している。

また連続放火犯の犯行行動と属性の関係について調査した鈴木（2000）によると、車やバイクなどを放火対象とする犯人は20代以下の男性が7割近くを占めるのに対し、ゴミや新聞などに火をつける犯人は40代の男性が半数以上を占めることを報告している。

このように同じ罪種であっても、犯人の犯行行動が異なれば犯人の属性も相違することが示されている。犯行行動と属性の関係をより詳細に把握するために、捜査機関が行う犯罪者プロファイリングでは、既に解決した同種事件のデータベースを使用する。このデータベースには各事件の犯人属性（例えば、性別や年齢、国籍、学歴、職業、犯罪歴等）や犯行時の行動（例えば、放火事件であるならば、犯行時間帯や放火対象、着火箇所、油類使用の有無等）が入力されている。このデータベースを用いることにより、犯人の犯行行動や犯行現場に関する情報等を検索手がかりにして、犯人の属性を推定することが可能になる。

犯罪者プロファイリングの中に、地理的プロファイリングと呼ばれる手法がある。この手法は犯人の住居あるいは活動拠点などを推定するために使用されるものである。犯人の住居を絞り込むことができれば、犯人検挙に直接結びつくため、捜査の有効なツールとして有望視されている手法である（三本，2000）。

地理的プロファイリングには大きく分けて2つの仮説がある。一つが「円仮説」（Canter & Larkin, 1993）と呼ばれるものであり、もう一つが「重心仮説」（Kind, 1987）と呼ばれるものである。これらのうち、円仮説は、最も離れた犯行地点2点を結ぶ直線を直径とする円内に犯人の住居が存在するという仮説である。この仮説では、犯行地点間の距離が遠いほど円の直径が大きくなり、それに伴って捜査範囲も拡大することになる。その反面、この説は非常にシンプルであり理解しやすく、地図や定規、コンパスなどがあれば誰でも簡単に推測できるという実務的なメリットがある（三本，2000）。

一方の重心仮説は、円仮説で描かれた円の重心部分（ほぼ円の中心と同じ）に犯人の住居があるとする仮説である。重心仮説は円仮説とは異なり、ピンポイントで犯人の住居を推定できるため、捜査手法として非常に有効性の高い仮説である。

地理的プロファイリングを実施する上で注意せねばならないことは、連続犯のタイプには拠点型と通勤型があることである（越智，2008）。拠点型とは犯人が自宅を中心とした円内で犯行を行うタイプであり、円仮説あるいは重心仮説により住居を推定することができる。それに対し、通勤型とは犯人の住居が犯行圏とは離れた別の地域にあり、移動してきて犯行を行うタイプである。もし犯人が通勤型タイプであるならば、円仮説も重心仮説も適用できないことから、まずは連続犯が拠点型か通勤型かを見極めることが必要になる。越智（2008）によると、犯行に次の特徴がみられた場合、犯人は拠点型タイプである可能性が高いとしている。即ち①犯行地点間の距離が1 km～5 km 以内、②犯行期間が比較的長期、③バイクや車のカバーに放火、④放火に付随した別の犯行（窃盗など）がみられない場合である。

元々犯罪者プロファイリングは、1970年代後半に米国連邦捜査局（FBI）内で行われた性的殺人犯の特徴を調査するプロジェクトから誕生した。その後、イギリスにおいて、FBI方式のプロファイリングは捜査官の経験に依存するところが大きく、職人芸的であるという批判がなされた。この批判に基づきイギリスでは犯人の属性と行動の類似性を統計的手法により明らかにする統計的プロファイリング（リヴァプール方式と呼ばれている）が誕生している（越智，2008）。

日本の警察においても、犯罪者プロファイリングは比較的早くから注目されており、平成8年には警察庁科学警察研究所防犯少年部（現「犯罪行動科学部」）を中心に、一部の都道府県警察の科学捜査研究所心理研究員らが参加する「プロファイリング研究会（現「犯罪者プロファイリング研究会）」が発足してい

る（高村，2000）。この研究会では，犯罪者プロファイリングに関する基礎的研究や試行的実践の報告，事例検討などが行われている。

また平成 15 年に警察庁が策定した緊急治安対策プログラムにより，重要犯罪（殺人や強盗，放火，強姦等）への対応策として犯罪者プロファイリングの導入が提言された。その結果，都道府県警での導入・実践が進み，平成 20 年には全国で 120 件の犯罪者プロファイリングが実施されている（警察庁，2009）。

意外なことに犯罪者プロファイリングは，警察ばかりでなく大学においても注目されている。大学教育では犯罪心理学，とりわけ犯罪者プロファイリングに関する講義は受講ニーズが高い。そのため犯罪者プロファイリングに関する講義内容及びその手法に関する研究が続けられている（桐生，2010；桐生・古河，2008）。

しかしながら，本来犯罪者プロファイリングは，警察の捜査活動として行われているものである。大学の研究者が犯罪者プロファイリングに関する研究を行おうとしても，必要な捜査情報（被害者情報や加害者情報，犯行現場情報等）が十分に得られず，実際に研究・実践を行うことは困難である（桐生・古河，2008）。

今回，福岡市内で発生したある連続放火事件（被疑者は既に逮捕・起訴）について，新聞記事やニュース映像などの報道情報から比較的詳細な情報が得られた。そこで，本論文ではこれらオープンソースの報道情報に基づいて犯罪者プロファイリングが実施可能か否かを検討する。具体的には，上述の連続放火事件について犯罪者プロファイリングにより犯人像及びその住居を推定し，その結果と，逮捕された被疑者に関する情報とを比較して検討する。もし限られた報道情報に基づいた犯罪者プロファイリングであっても，一定の水準以上で犯人像を推定できるのであれば，大学における犯罪者プロファイリング研究や教育の実施可能性を示すことができる。

方 法

対象事件 平成 X 年 1 月から 2 月までの間、福岡県福岡市 H 区で発生した連続放火事件を対象にした。一連の放火事件は合わせて 5 件あり、いずれもマンション駐輪場内のバイクや自転車などに放火されている。被疑者は平成 X 年 2 月中旬にマンションの自室内に火をつけたところを警戒中の警察官により現行犯逮捕され、その後の調べで 5 件の放火事件全てについて犯行を認めている。平成 X 年 3 月に精神鑑定のため鑑定留置された後、同年 5 月に現住建造物等放火罪で福岡地方裁判所に起訴されている。

事件情報の収集 本事件に関する主な情報は、新聞記事（西日本新聞及び読売新聞）、新聞社が提供している新聞記事データベース（朝日新聞社「聞蔵Ⅱ」、読売新聞社「ヨミダス文書館」）及び福岡のテレビ局（FBS 福岡放送、KBC 九州朝日放送、RKB 毎日放送）がホームページ上で公開しているニュース映像から収集した。収集した事件情報は発生日時（曜日含む）、放火場所、放火対象物、油類使用の有無等を一覧表にしてまとめた。各犯行現場や犯人の自宅住所については、詳細まで報道されていないため、ニュース映像に映し出された犯行現場の映像を Google マップや同マップのストリートビュー機能を参照して特定した。この特定した情報を地図上にマッピングするとともに、各犯行地点間の距離を計測した。

犯人の個人属性推定 本事件の犯人の個人属性（性別や年齢、職業）を推定するために、科学警察研究所報告防犯少年編の論文（田村・鈴木、1997）を参照した。この論文は日本国内の大都市（東京、大阪、神奈川、埼玉及び千葉）で発生した連続放火事件（5 件以上の犯行記録のあるもの）107 事件について、データベースの作成や各犯行地点のマッピング等を行い、放火方法や放火対象物、犯行時間帯、各犯行地点間の距離等の犯行特徴から推定される犯人の個人属性（年齢や性別、職業、学歴など）を報告したものである。本研究では上述した対象事件の犯行特徴を抽出し、論文に掲載されたデータから犯行特徴と結

びつきの高い犯人属性を調べた。

犯人の住居推定 本研究では地図上にマッピングした犯行地点間で最も遠く離れた2点を選び、その2点を直径とする円を描き、さらにその円の中心点を求めた。「円仮説」(Canter & Larkin, 1993)に基づけば、地図上に描いた円内に犯人の住居があると推定され、「重心仮説」(Kind, 1987)に基づけば、円の中心地付近に犯人の住居があると推定される。

推定結果の検証 推定した犯人像並びに犯人の住居については、逮捕後の被疑者に関する報道情報と比較対照し、その妥当性を検証した。

結果及び考察

連続放火事件の現場 福岡市H区で発生した連続放火事件5件の特徴を表1に示す。事件が発生したX 1丁目から4丁目の一帯は県立X高校東南に隣接する地区であり、マンションや一戸建て一般住宅のほか、コンビニエンスストアや書店、ドラッグストア等が建ち並んでいる。地形は平坦であり、西から南東へ県道24号線(片側1車線)が通っている。また北西から南東に向けてJR香椎線が通っており、途中で県道24号線と交差している。

表1 福岡市H区Xにおける連続放火事件一覧

事件No.	発 生 月 日	発 生 時間帯	曜日	発生場所	放火対象	備 考
1	1月16日	午前1時 ころ	土	H区X 1丁目 マンションA駐輪場	バイク2台	
2	1月17日	午前0時 ころ	日	H区X 1丁目 マンションA駐輪場	バイクや自転車	
3	2月7日	午前1時 ころ	日	H区X 1丁目 マンションB駐輪場	駐輪場の自転車やバ イク合わせて7台	
4	2月9日	午前3時 40分ころ	火	H区X 1丁目 マンションA駐輪場	バイク2台と自転 車5台	油が染みこんだ ティッシュペー パーが入ったポ リ袋の燃えかす
5	2月15日	午後10時 半ころ	月	H区X 4丁目 マンションC駐輪場	原付バイク2台と自 転車3台が全焼し、 サドルなど一部が燃 えた自転車が13台	油を染みこませ た紙の燃えかす (ティッシュペー パー)

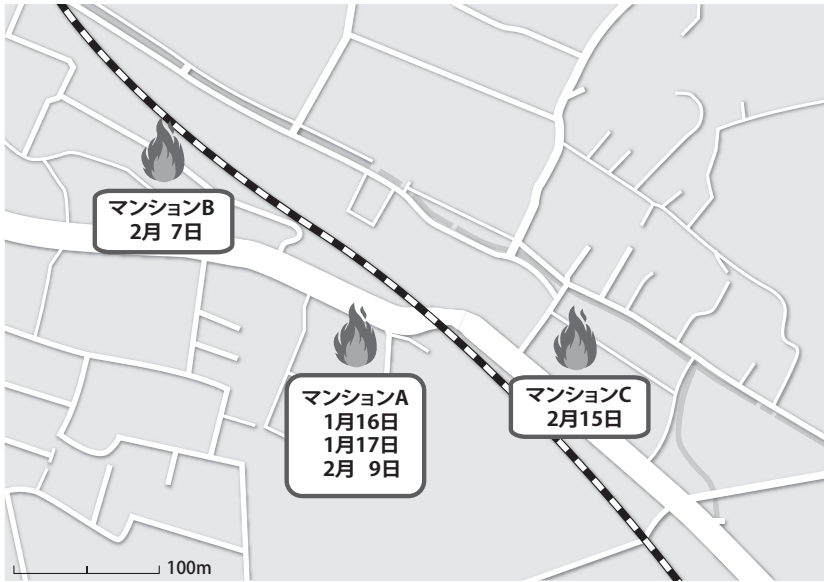


図1 福岡市H区で発生した連続放火事件の発生場所
「炎」マークが発生場所を示す。

放火された場所は5件ともマンションの駐輪場であり、X1丁目のマンションAで3回、同1丁目のマンションBと同4丁目のマンションCで各1回発生している（図1参照）。これら3箇所の犯行現場間の最長距離は、マンションBとマンションC間であり、約300m離れている。

放火対象は駐輪場内のバイクや自転車などであり、2月9日と同15日の事件では、犯行現場に油類が染みこんだ紙の燃えかすが見つかっている。また最後の事件のみ午後10時半頃に発生しているが、残り4件は午前0時頃から午前3時40分頃までの間に発生している。

犯人の住居推定 円仮説及び重心仮説を援用して犯人の住居を推定するにあたり、一連の事件の犯人が拠点型か通勤型か検討した。その結果、バイクや自転車等を放火対象としている点、また放火に付随して窃盗など別の犯行を行って

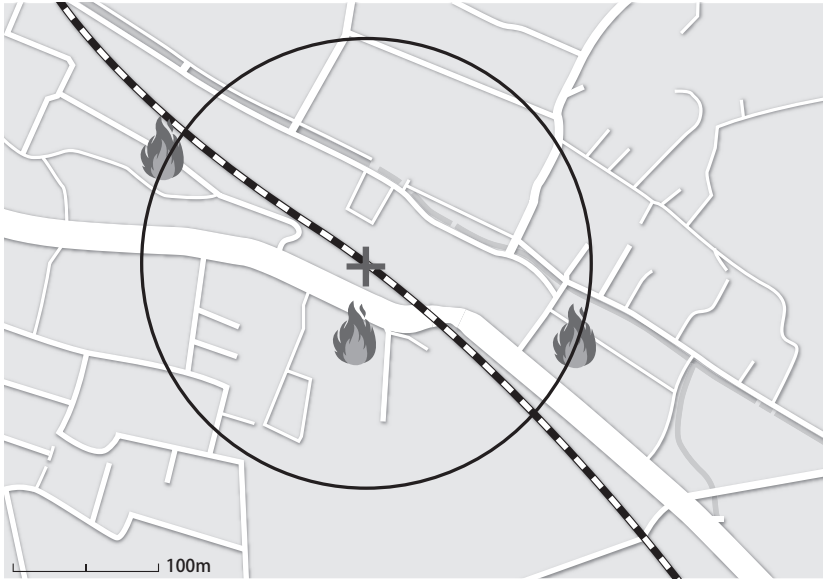


図2 福岡市H区で発生した連続放火犯の住居推定結果

円仮説による推定結果は図中の円内の領域であり、重心仮説による推定結果は「+」マークの箇所である。

いないとみられる点、さらに深夜・未明という公共の交通機関が利用できない犯行時間帯である点などから拠点型の可能性が高いと判断し、拠点型との仮定をもとに犯人の住居推定を進めた。円仮説による犯人住居の推定結果と重心仮説による推定結果をそれぞれ図2に示す。円仮説に従って描かれた円はマンションBとマンションCの2点を通る直径約300mの円である。また推定された犯人の住居は、重心仮説により特定された円の中心地、つまりマンションAとほぼ同じ場所になった。これらの結果から、犯人の住居はX地区内の直径約300mの円内、さらにその中心付近にある可能性が高いと考えられる。

犯人属性の推定 田村・鈴木（1997）によると、連続放火犯は男性が約88%を占めており、女性と比べ圧倒的に多い。年齢層は30代が中心であり（平均

年齢：35.5歳）、全体の約30%を占める。また犯行現場間の最長距離が300mの場合、犯人の年齢層は30代が最も多い（約32%）。さらに本件のように車やバイクなどを放火対象としている犯人は20代以下に次いで30代が多い。これらのことから犯人は30代の男性である可能性が高いと判断した。

放火犯の職業については、無職者が全体の約30%で最も多く、工員・職人が約22%、土木作業員・労務者の約15%と続く。今回の事件では、午前零時以降の犯行が多く、少なくとも日勤制の職業・職種に就いている可能性は低いものと考えられ、犯人は無職である可能性が高いと判断した。

以上のことから本件の犯人は、30代の無職男性である可能性が高いと推定された。

推定結果と逮捕された被疑者の比較 犯罪者プロファイリングにより推定した犯人像と逮捕された被疑者に関する情報を表2に示す。逮捕された被疑者は無職の36歳男性であり、犯人は30代無職男性であるという推定結果と一致していた。この被疑者はマンションの自室内に放火したところを警戒中の警察官に逮捕されている。自室に放火するという犯行形態は犯人が精神障害やノイローゼ、アルコール中毒等の問題を抱えている場合にみられやすいことが知られている（木下，2003）。さらに連続放火犯の約2割が知的障害や統合失調症、てんかん、薬物中毒などの精神障害を有することも報告されている（鈴木，2004）。実際にこの被疑者に対しては逮捕後、精神鑑定が実施されていることから、その可能性は高いものと考えられる。もし精神障害を有しているのであれば、そ

表2 推定した犯人像と逮捕された被疑者の比較

	推定した犯人像	逮捕された被疑者
性別	男性	男性
年齢	30代	36歳
職業	無職	無職
居住地	マンションA 付近	マンションA

の病状は放火という犯行を行うまで進行していることから、就労・稼働は難しく、犯行時無職であったという推定をさらに補強するものである。

犯人の属性の推定に関しては、上記の性別、年齢層、職業以外にも、学歴や婚姻歴、前歴なども推定することが可能である。これらの情報は犯人像をより明確に浮かび上がらせるための貴重な情報であり、犯罪者プロファイリングを実施する際、捜査側から推定を求められる情報であると思われる。しかしながら、これらの情報に関しては、報道情報からは何も得られず、推定結果を検証できないため推定対象から除外した。検証可能な犯人属性が制限されるのは、報道情報のみに基づいて行う犯罪者プロファイリングの一つの限界であるといえる。

一方、犯人の住居の推定については、被疑者が住んでいた自宅と推定結果が高い精度で一致していた。この結果は地理的プロファイリングの重心仮説の妥当性の高さを示すものである。今回のように高い精度で推定できた理由は、各犯行地点が比較的狭い範囲（直径約 300m の円内に収まる範囲）に集中しており、なおかつ犯人が拠点型タイプであったことに由来するものである。この結果は犯人の住居推定については、犯行現場の位置情報さえ入手できれば、高い精度で推定できることを示唆するものである。

今回、犯罪者プロファイリングを実践するにあたって最も困難だったことは事件情報の収集である。特に犯行現場の位置特定は最も苦勞した。新聞記事からは犯行現場の地番のうち「丁目」までの情報しか得られないため、ニュース映像中に映し出された犯行現場の建物の外観や付近の状況等を参考にして特定作業を行った。ニュース映像からは犯行現場の特定以外にも犯行現場の視覚的情報を得ることができ、事件に関する情報を大いに補完することができた。しかしながら、ニュース映像のほとんどは公開されている期間がごく短く、自由に視聴できる機会が限られている。したがって、犯罪者プロファイリングが実施できそうな連続放火事件や連続強姦事件などに関するニュースについては、

日常的に情報を確認する必要がある。

以上をまとめると、今回実施した犯罪者プロファイリングは、犯人像推定並びに犯人の住居推定ともに実際の犯人に関する情報と推定結果がほぼ一致していた。しかしながら、事件情報の収集を全て報道情報に依存しているため、推定・検証可能な項目は、報道されることの多い性別、年齢、職業などに制限される。その一方で、犯人の住居推定では、主にニュース映像に基づき、円仮説及び重心仮説を援用し高い精度で犯人の住居を推定することができた。したがって、報道情報に基づいた犯罪者プロファイリングは、実際の捜査で求められる水準を全て満たすことはできないものの、大学生に対し、犯罪者プロファイリングの概念、各種理論、実務的な方法や手順などを教授することは十分に可能であるものと考えられる。

謝 辞

本論文中の地図（図1及び図2）の作成には、福岡市博多区所在のデザイン制作事務所「GoreyDesign」（<http://www.goreydesign.com/>）の大川松樹氏にご協力頂いた。ここに感謝の意を表する。

参考文献

- Canter, D. & Larkin, P. (1993). The environmental range of serial rapists. *Journal of Environmental Psychology*, **13**, 63-69.
- Douglas, J.E. & Burgess, A.E. (1986). Criminal profiling : A viable investigative tool against violent crime. *FBI Law Enforcement Bulletin*, **55**, 9-13.

Kind, S.S. (1987). Navigational ideas and the Yorikshire Ripper investigation. *Journal of Navigation*, **40**, 358-393.

警察庁 (2009). 平成 21 年 警察白書

木下慎次 (2003). 放火犯が笑っている イカロス出版

桐生正幸 (2010). 大学における犯罪者プロファイリングの講義の検討：大学生版犯罪情報分析教育プログラム（大学生版 CIA）の効果測定，関西国際大学研究紀要，**11**，99-112.

桐生正幸・古河逞箭 (2008). 大学における犯罪者プロファイリングをテーマとした犯罪心理学の講義 関西国際大学研究紀要，**9**，77-87.

三本照美 (2000). 地理的プロファイリング 田村雅幸（監修） 高村茂・桐生正幸（編） プロファイリングとは何か 北大路書房 pp.91-102.

越智啓太 (2008). 犯罪捜査の心理学 プロファイリングで犯人に迫る 化学同人

鈴木護 (2004). 連続放火事件の犯人像 渡辺昭一編 捜査心理学 北大路書房 pp.146-159.

鈴木護 (2000). 放火のプロファイリングⅡ 都市の連続放火事件を対象とした知見 田村雅幸（監修） 高村茂・桐生正幸（編） プロファイリングとは何か 北大路書房 pp.167-179.

- 高村茂（2000）. プロファイリング研究会 田村雅幸（監修） 高村茂・桐生正幸（編） プロファイリングとは何か 北大路書房 pp.231.
- 田村雅幸・鈴木護（1997）. 連続放火犯の犯人像分析 1. 犯人居住地に関する円仮説の検討 科学警察研究所報告防犯少年編, **38(1)**, 13-25.
- 渡邊和美（2004 a）. 犯罪者プロファイリング 高取健彦（編） 捜査のための法科学 第一部（法生物学・法心理学・文書鑑識）令文社 pp.206-216.
- 渡邊和美（2004 b）. 殺人捜査本部事件の分析 渡辺昭一編 捜査心理学 北大路書房 pp.146-159.